HisayamaLIFE Newsletter

公益社団法人 久山生活習慣病研究所

第16号

2021年5月20日発行

ごあいさつ

当法人は、九州大学が福岡県久山町と共同で行っている健診事業と疫学研究(久山町研究)および九州大学の臨床研究を支援・推進する公益法人です。久山町研究は2021年度で60周年を迎え、今では学内外の多くの教室や民間企業が参加する九州大学の学際研究として成長しました。また臨床研究の分野でも、大学病院とその関連病院の患者様を対象とした疾患コホート研究が発展しています。

世界はいまだ終息の見通しが立たない未曾有のコロナ禍の渦の中にあります。当法人においても追跡調査の制約などの影響を受けましたが、感染防御に細心の注意を払いつつ業務を遂行しています。私たちは引き続き、日本人の疾病の発症予防・重症化予防のエビデンスを生み出す活動を通じて、国民の健康増進および健康寿命の延伸に寄与できるよう一層の努力を重ねてまいる所存です。さらなるご理解とご支援をお願いするとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心より祈念いたします。

代表理事 清原 裕

トピックス

■ 学会報告:第46回日本脳卒中学会学術集会

2021年3月11日(木)~3月13日(土)(Web配信は4月12日(月)まで)に福岡国際会議場にて第46回日本脳卒中学会学術集会を主催いたしました。第50回日本脳卒中の外科学会学術集会(富山大学脳神経外科教授 黒田敏会長)ならびに第37回スパズムシンポジウム(東邦大学脳神経外科教授 岩渕聡会長)と合同で"STROKE2021"としての開催でした。高齢化の進む我が国において、脳卒中の患者さんの数は増加の一途を辿り、要介護や認知症の原因としても極めて重要な疾患となっています。脳卒中医療の目覚しい進歩によって脳卒中患者さんの予後は劇的に改善してきましたが、未だに解決すべき課題は多く残されており、さらなる脳卒中医療・医学の発展が期待されています。そこで、STROKE2021のテーマは、"脳卒中制覇~さらなる頂へ~"としました。コロナ禍の影響で現地開催とインターネットを活用した遠隔開催を組み合わせたハイブリッド形式での開催となりましたが、内科、外科、放射線科、リハビリテーション科、救急科といった幅広い分野の医師やコメディカルスタッフの皆様6,501名にご参加いただき活発な議論をしていただきました。当法人に関連する演題として、会長講演とともに、久山町研究から4題、福岡脳卒中データベース研究(FSR)から13題の演題を発表いたしました。脳卒中医療・医学の進歩に貢献できる意義ある会になったのではと思っています。ご協力いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

学会長 北園 孝成



会長講演

■ 新理事 ごあいさつ

2020年10月、町民の皆さまの温かいご支持を賜り久山町長に就任し、それに伴い当法人の理事となりました。私は、久山町で生まれ育ち、町長就任以前は久山町役場職員として28年間、都市計画や企画等の業務を中心にまちづくりに携わってきました。その経験の中で、私たちが暮らす久山町は、人が幸せに暮らしていくために大切なことを半世紀以上にわたり継承してきた、素晴らしい町だと理解するようになりました。

久山町は、福岡市に隣接しながらも人口は約9,300人、美しい田園風景や人と人との温かいつながりを残す、日本の古き良き時代を感じる町です。現代社会においては、人口減少が続き、あらゆるものが溢れています。人口や経済規模の大小が人々の暮らしの豊かさを測るものさしではなくなり、持続可能な社会が求められる今、久山町はSDGsを体現するモデル自治体として、さまざまな分野から注目されています。



久山町のまちづくりの礎は、60年にわたり揺るがず継承する基本理念「国土・社会・人間の3つの健康づくり」によって築いてきました。そして、健康の源とも言える「人間の健康づくり」を実現する重要な取り組みが久山町健診事業と久山町研究です。この取り組みは、町民の皆さまの健康づくりはもちろん、蓄積された貴重な追跡データは、我が国の生活習慣病の実態や原因の解明に大きく寄与してきました。

現在、「地域医療」という言葉をよく耳にしますが、久山町では60年も前から健診事業を通して「地域医療」に取り組んできたと言えます。九州大学医学部と町内開業医、町とが連携して町民の皆さまの健康を守るという共通の「思い」は、町民の皆さまの日々の暮らしにも浸透しており、特定健診受診率の高さにも表れています。また、今回の新型コロナウイルスのワクチン接種に関わる体制づくりにおいても、いち早く個別・集団接種の実施体制の構築を図ることができましたのも、「地域医療」が確立している証だと認識しております。

日本のどこを探しても、「人間の健康づくり」にこれほど真摯に取り組み続けてきた例は他にはありません。これからも、先人たちが取り組んできた久山町健診事業や久山町研究の更なる発展に努め、住むだけで健康になれる町をめざして、小さな町の大きな挑戦を続けてまいる所存です。引き続き、皆さまのご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

久山町長 西村 勝

■『健康のまち』づくりを担ってきた住民の皆様が"手から手へつないできた60年"の記録ー "ひさやまの、ひとびとの、ひびをつむぐ。『ひひひ展』"が開催されました。



久山町はこれまで『国土・社会・人間の健康づくり』を基本理念として、独自のまちづくりを推進してきました。その取り組みの礎と言える町の生活習慣病予防健診は今年で60周年を迎えます。『健康のまち』をつないできた人々の記録をまとめた『ひひひ展』が2021年3月8日(月)から3月31日(水)まで久山町ヘルスC&Cセンターひさやま健康ライブラリーで開催されました。





あたかも「データの森」を訪れたような雰囲気の中、健診60年の歩みが年表で紹介され、日本の他の地域と比較して圧倒的 に高い町の健診受診率、半世紀以上にわたる健診受診者数や剖検者数の推移などが視覚化されていました。





また、これまで健診の発展とそれを通じた町民の健康づくりに貢献してきた首長、九州大学関係者、町内開業医、住職、町職員などさまざまな立場の人びとが語ったことば、研究開始当時の江口浩平町長による第1号剖検同意書、現町民へのインタビューや写真など多くの興味深い資料が展示されました。





2020(令和2)年度の活動

久山町健診事業・久山町研究

■ 健診事業

今年度の生活習慣病予防健診は2020年8月1日から9月29日までの計28日間、久山ヘルスC&Cセンターで行われた。コロナ感染予防のため健診は予約制とし、問診、身体計測、血圧測定、診察、採血、検尿の簡易健診を行った。40歳以上の受診者数は2013名であった。







■ 血中脂肪酸と生活習慣病との関係に関する共同研究

2011年3月より、持田製薬株式会社および九州大学との共同研究において、久山町の地域住民における血中脂肪酸と生活習慣病との関連について検討している。2019年度は、2002年の久山町集団において血清EPA濃度の上昇に伴い血管性認知症の発症リスクが低下することを明らかにした。本年度は2012年の集団における5年間の心血管病発症の追跡調査のデータセット作成を完了した。

■ 腸内細菌叢と栄養状態の関連に関する共同研究

株式会社明治および九州大学との共同研究契約において、2018年に腸内細菌叢研究に参加した1600人の腸内細菌叢データを用いて、腸内細菌叢と血清アミノ酸濃度との関係を検討した。しかしながら、有意な関連を認めなかった。

■ 久山町疫学研究成果のITツールを活用した社会実装および疾患予防に関する共同研究

昨年度に引き続き、DeSCヘルスケア株式会社、および九州大学との共同研究において、久山町住民を対象に久山町研究の成果を基に開発されたITツールを活用した疾患予防に向けた取組みを継続した。本年度は、認知症発症のリスクスコアの開発を開始した。

■ 非侵襲皮膚カロテノイドレベルと野菜摂取量との関係に関する共同研究

カゴメ株式会社と中村学園大学との共同研究契約において、2019年度に研究参加に同意いただいた久山町住民144名を対象として、秤量記録法による食事調査と光学式非侵襲皮膚カロテノイド測定装置(ベジチェック®)による皮膚カロテノイドレベルの測定を実施した。食事調査は2020年8月に連続4日間実施した。今後、データ整備を行い、非侵襲皮膚カロテノイドレベルと野菜摂取量との関係を検討する。

■ 日本医療研究開発機構 (AMED) 認知症研究開発事業 「健康長寿社会の実現を目指した 大規模認知症コホート研究 (JPSC-AD)」の支援

JPSC-ADは、全国8地域(青森県弘前市、岩手県矢巾町、石川県中島町、東京都荒川区、島根県海士町、愛媛県中山町、福岡県久山町、熊本県荒尾市)における地域高齢者1万人からなる大規模認知症コホート研究を設立し、統合された調査データを用いて認知症の危険因子を同定することを目的としている(研究期間:2016年4月~2021年3月)。さらにこのプロジェクトでは、従来型のコホート研究に、ゲノム・オミックスに関する基礎研究の手法と知見を融合させ、認知症の病態解明を図ることを目指している。

2020年度は前年度に引き続き、上記の国家プロジェクト研究に参画しデータベースの構築・管理・整備の支援を行った。

■ 全国認知症コホート追加研究の支援

本研究では、九州大学等との共同研究契約に基づいて、上述の「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究(JPSC-AD)」の調査対象者について質問票を用いた追加調査を実施している。それにより、認知症や心血管病などの疾患発症に及ぼす要因を明らかにすることを目的とするものである。

2020年度は、本研究に参画し九州大学以外の施設のデータ収集・管理の支援を前年に引き続き行った。

(文責 二宮利治)

福岡脳卒中データベース研究(Fukuoka Stroke Registry: FSR)

■ 多施設共通データベースを用いた脳卒中に関する臨床疫学研究

急性期脳卒中患者の前向き登録研究であるFSRには、2006年7月から2019年9月末日までに17,074人の患者が登録されており、九州大学病態機能内科学脳循環研究室が中心となってデータ管理や追跡調査が継続されている。当法人では、久山町研究の疫学・臨床研究のノウハウを生かしてFSRの支援を引き続き行った。

■抗血栓治療薬の使用実態と予後に関する研究

本邦における脳卒中領域のリアルワールドエビデンスを構築することを目指して、第一三共株式会社との共同研究において抗血栓治療薬の使用と予後の関連について検討した。

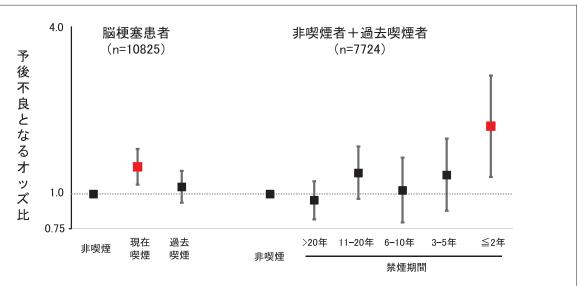
2020年度は、FSRに登録された抗凝固薬、抗血小板薬の投与患者を対象に、入院中の再発、出血性イベント、退院後の 死亡、再発を含むアウトカムと遺伝子との関連について調査を行った。

- 脳梗塞におけるバイオマーカー探索、解析(REBIOS、REBIOS2)/ 再解析(R-REBIOS)に関する共同研究
- 脳梗塞におけるバイオマーカーの検証に関する共同研究(VREBIOS)

FSRで行われている一連の共同研究 (REBIOS、REBIOS 2、R-REBIOS、VREBIOS) の継続研究として、FSRに登録された 脳梗塞患者の臨床情報および検体を用いて脳梗塞の病態に関連するバイオマーカーについての研究を引き続き行った。

REBIOSデータの二次利用として、株式会社株式会社LSIメディエンスとは脳梗塞診断・治療に関連する血液凝固マーカー・血小板マーカーの有用性に関する研究を、田辺三菱製薬株式会社とは新規脳梗塞バイオマーカーの有用性に関する研究を行った。

(文責 北園孝成)



性、年齢、重症度、病型、高血圧、脂質異常、糖尿病、心房細動、飲酒、冠動脈疾患、慢性腎臓病、再灌流療法で調整

図. 喫煙習慣が脳梗塞発症予後に及ぼす影響

(Matsuo R. et al. Stroke. 2020:51:846-852)

対象者:福岡脳卒中データベースに登録された脳梗塞患者10825名アウトカム:発症3カ月後機能転帰不良(modified Rankin Scale 2-6)

- 現在喫煙により、脳梗塞発症後の機能転帰は有意に不良となる
- ・ 3年以上の禁煙により機能転帰不良のリスクは非喫煙者と同等となる



福岡県糖尿病患者データベース研究 (Fukuoka Diabetes Registry: FDR)

FDRは、九州大学病院および関連する糖尿病が専門の医療機関16施設に通院中の糖尿病患者5,131人について、食事、運動、メンタルヘルスを含む臨床情報ならびに血液、尿、DNAを収集し、コホート集団とした研究である。2008年より登録を開始し、すでに13年が経過し、現在は当初計画した5年間の追跡期間を延長し、第二期調査を行っている。2020年度は前年度に引き続き、九州大学病院および関連施設において対象者の追跡調査を行った。

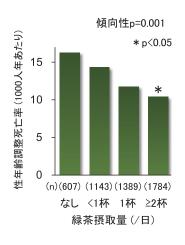
(文責 大隈俊明)

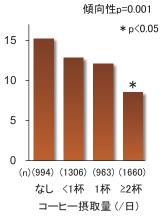


FDR研究スタッフ

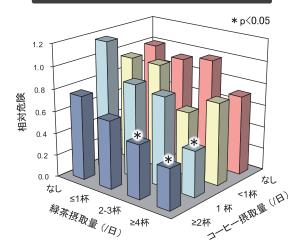
緑茶摂取と総死亡

コーヒー摂取と総死亡





緑茶・コーヒー両方摂取と総死亡



※年齢、性、BMI、糖尿病罹病期間、喫煙、飲酒、余暇身体活動量、 HbA1c、eGFR、尿中アルブミン、収縮期血圧、LDLコレステロール、 心血管障害既往、睡眠時間で調整

Komorita Y, et al. BMJ Open Diabetes Res Care. 2020;8(1):e001252.

図. 緑茶・コーヒー摂取量が2型糖尿病患者の総死亡リスクに与える影響

福岡県糖尿病患者データベース研究に登録された2型糖尿病患者 4,923名(20歳以上)を5年間追跡し、緑茶・コーヒーの摂取量が多いほど、総死亡リスクが有意に低いことを明らかにした。また、緑茶・コーヒーの両方を摂取する人はさらに死亡リスクが低下した。

福岡腎臓病データベース研究 (Fukuoka Kidney disease Registry: FKR)

当法人は、九州大学病態機能内科学(九州大学病院)およびその関連施設と共同で、腎臓病患者を対象とした臨床研究(福岡腎臓病データベース研究、FKR)を推進し、以下のプロジェクトを行っている。

■ 新規腎生検症例登録による腎生検コホート(FRBR)

九州大学病院および研究参加施設における新規腎生検症例のデータベースへの登録は2019年1月末に完了し、その総数は310名であった。2020年度は登録された症例の追跡調査作業を行った。

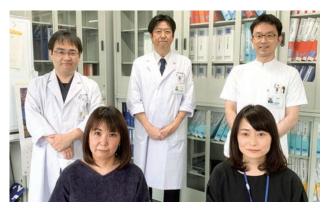
■ 保存期CKD症例登録による前向きコホート(保存期FKR)

2012年に登録を開始した保存期慢性腎臓病 (CKD) 患者数は2020年1月末時点で4,476例であった。2020年度は、登録された症例の追跡調査として引き続き各施設への定期的な臨床研究コーディネーター (CRC) の巡回体制を維持し、予後追跡作業、データ固定作業を進めた。

■ 既存腎生検症例による後ろ向きコホート

九州大学病院と関連施設において1995~2015年の間に生検により組織診断された腎疾患患者のうち、これまでIgA腎症1,500例、糖尿病腎症113例、巣状糸球体硬化症253例をFKRに登録した。2020年度はこれら対象患者の追跡調査を行った。

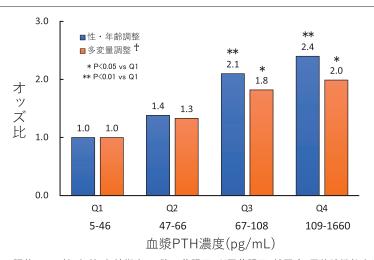
(文責 中野敏昭)



FKR研究スタッフ



定例ミーティング



†調整因子: 性, 年齡, 収縮期血圧, 降圧薬服用, 利尿薬服用, 糖尿病, 甲状腺機能亢進症, etc.

Arase H, et al. Circ J 84:1105-1111, 2020

図. 血漿副甲状腺ホルモン(PTH)濃度と心房細動頻度の関連

FKR研究に登録した3,384人の慢性腎臓病患者において血漿副甲状腺ホルモン(PTH)濃度と心房細動頻度の関連を検討した。その結果、PTHレベルとともに心房細動を合併する確率が上昇することが明らかとなった。

役員(令和3年5月1日 現在)

■代表理事

清原 裕 久山町ヘルスC&Cセンター長

九州大学 名誉教授

■副代表理事

北園 孝成 九州大学大学院 医学研究院

病態機能内科学 教授

西村 勝 久山町長

■常務理事

二宮 利治 九州大学大学院 医学研究院

衛生·公衆衛生学 教授

■理 事

赤司 浩一 九州大学 病院長

飯田 三雄 九州大学 名誉教授

石橋 達朗 九州大学 総長

岩城 徹 九州大学大学院 医学研究院

神経病理学 教授

上野 道雄 国立病院機構福岡東医療センター

名誉院長

小田 義直 九州大学大学院 医学研究院

形態機能病理学 教授

角森 輝美 学校法人福岡学園 福岡看護大学

地域·在宅看護部門 教授

梶山 千里 公立大学法人福岡女子大学

最高顧問

中野 昌弘 国立病院機構福岡東医療センター

名誉院長

貫 正義 九州電力株式会社 相談役

松田 峻一良 公益社団法人福岡県医師会 会長

■監事

阿部 文俊 久山町議会 議長

中西 裕二 中西裕二公認会計士事務所 所長

五十音順·敬称略

ご寄付をいただきありがとうございます

2020年度は、総額18,000,000円の寄付を頂戴しました。 この場をお借りして改めて感謝の意を表します。

(順不同)

個人 梶山 千里 様

松井 和弘 様

三井島 千秋 様

和田 美也 様

中村 晋様

法人 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院

理事長 井手 義雄 様

社会医療法人製鉄記念八幡病院

理事長 土橋 卓也 様

医療法人幸善会 前田病院

理事長 前田 利朗 様

医療法人医心会 福岡腎臓内科クリニック

理事長 平方 秀樹 様

医療法人原クリニック

理事長 原 裕介様

医療法人いわい内科クリニック

理事長 岩井 啓一郎 様

小野薬品工業株式会社 様

当法人は、九州大学病態機能内科学ならびに衛生・公衆衛生学を中心とした臨床研究と疫学研究の成果を活用し、生活習慣病の予防と治療法の開発を通じて国民の健康福祉の推進に貢献することを目的としています。事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますよう心よりお願い申し上げます。

なお、当法人への寄付金は、特定公益増進法人への寄付金として、所得税・法人税の税制上の優遇措置が適用されます。 詳しくはホームページwww.hisayamalife.or.jpをご覧ください。

HisayamaLIFE Newsletter

第**16**号

公益社団法人 久山生活習慣病研究所

〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原1822番地1

九州大学内事務局

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 (九州大学大学院医学研究院衛生·公衆衛生学内) TEL:092-642-6284 FAX: 092-642-6108 担当: 眞武 智子